

NII サービス説明会 2022 認証セッション

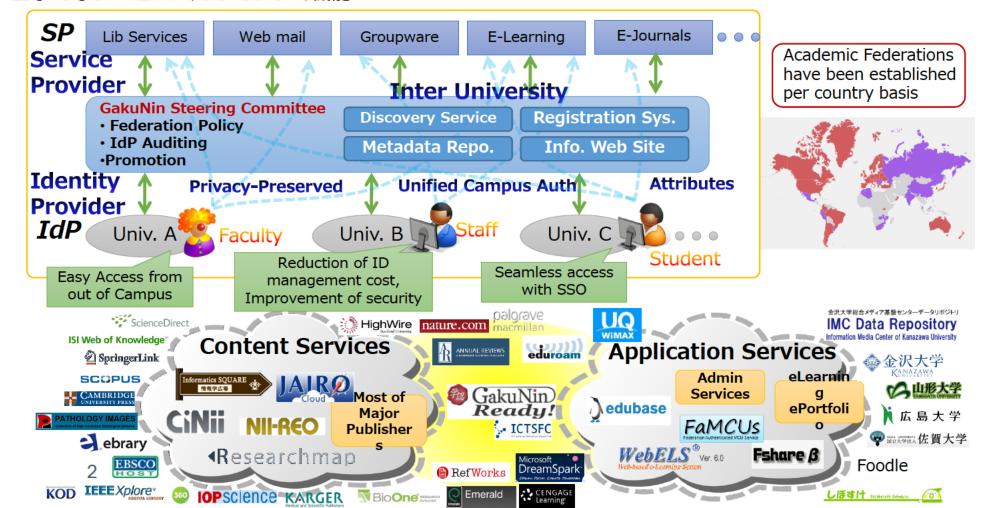
学認が目指す次世代認証連携

学術認証推進室

学術認証フェデレーション



- 学認は、サイバー空間における円滑な学術活動を支援すべくトラストフレームワーク(ポリシ、技術、評価)を提供
 - 全学的なサービスに対してうまく機能



研究・教育DXを推進するために



- 研究・教育データ流通の加速が必須
- ●データ流通において、認証認可は極めて重要
 - データを誰が提供するのか
 - データに誰が参照するのか
- コミュニティ単体で対応することの限界
 - 独自のトラストフレームワークに基づいた基盤運用は持続可能か?
 - コミュニティ間でデータをどのように流通させるのか?
- 研究·教育DXを推進する新しいトラストフレームワーク
 - 認証ポリシの相互運用性
 - Identity Assurance Level (IAL), Authenticator Assurance Level (AAL)
 - 認証認可技術の高度化

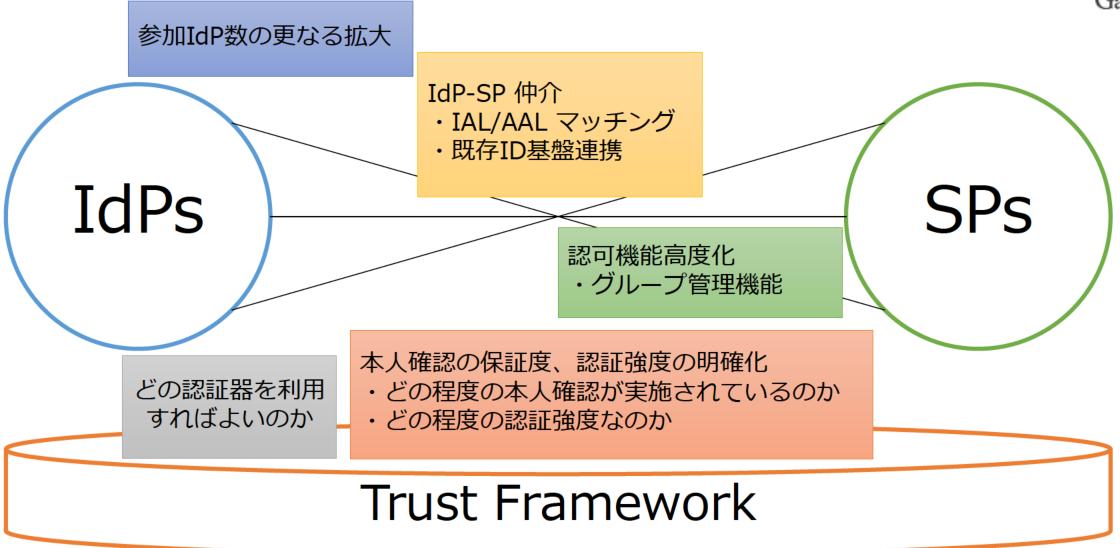
次世代認証連携への要望(SP視点)



- IdP を持たない利用者の認証
 - 利用者は、必ずしも学認に参加するIdPのアカウントを所有しているわけではない
 - 信頼に足る本人確認を行っている IdP に依拠したい
- 認証レベルの把握
 - Id&Password か 多要素か
 - 多要素認証を経た利用者のみにサービスを提供する、のようなフィルタリング
- 複数組織に所属する利用者の同定
- 組織異動における利用者の同一性の担保
 - 組織間異動があっても情報資産利活用の継続性を担保したい
 - e.g., GakuNin RDM 上の資産を継続的に利用したい
- 用途に応じた属性の提供
 - 例:居住者か非居住者かを把握したい(輸出管理)

新しいトラストフレームワーク





次世代認証連携における主要構成要素



学認IAL/AAL

●本人確認の保証度、認証強度について規定

認証器レジストリ

●学認AALに基づく認証器の評価

認証プロキシサービス

• IAL/AAL matching, Credential bridging, Attribute coordination

IdPホスティングサービス

●大学、研究機関のIdP構築運用の課題を議論

グループ管理機能の高度化

●より高度な認可要求に対応

作業部会およびサブWGにおける活動



- 学術認証運営委員会にて、以下の作業部会を設置
 - 次世代認証連携検討作業部会
 - 短期取組検討サブワーキンググループ
- 次世代認証連携検討作業部会
 - IAL/AAL 評価基準および認定手続きの検討
 - AAL 技術支援の検討
 - persistent ID の検討
- 短期取組検討サブWG
 - IAL2/AAL2 の認証試行開始に向けて
 - まずは試験的 IdP/SP で実証実験を実施予定
 - 各大学の実運用 IdP への展開に向けた課題整理
 - 実証実験参加機関を募集

次世代認証連携実現に向けて…



- ●学認の取り組みを随時公開して参ります
 - •NII Open Forum 2023